

2007. 1月号

# アスリートのための キャリア・トランジション勉強会

Newsletter No. 19

2007年 1月24日

第19回

アスリートのためのキャリア・トランジション勉強会

## 【目次】

1. 「日本におけるアスリートのキャリアトランジションプログラム開発事情」 ゲスト：相馬浩隆 氏 _____	1
2. 第19回 アスリートのためのキャリア・トランジション勉強会 アンケート集計結果 _____ 2007年1月24日 勉強会参加者一覧 _____	7 10
3. 次回勉強会スケジュール _____	11

## 第 19 回 アスリートのためのキャリア・トランジション勉強会

### ■テーマ■

「日本におけるアスリートのキャリアトランジションプログラム開発事情」

### ■ゲスト■

相馬浩隆（そうま ひろたか）氏

筑波大学トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクト 専任研究員

19 回目のゲストは、筑波大学体育研究科に勤務し、学内に創設されたトップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクトメンバーでもある相馬浩隆氏を迎えて行った。

このプロジェクトは、文部科学省から助成を受け 2005 年から 2008 年までの 3 年間活動しており、最終的な研究の成果物として、アスリートへのセカンドキャリアに向けたカリキュラムを開発するというを目的としている。

以下、順を追って勉強会の内容についてまとめていく。

#### <トップアスリートの特徴と取り巻く環境の変化>

トップアスリートの特徴として、

- ①スポーツばかりの人生を送ってきたために、競技引退後に、第 2 の人生にうまく適応していけない。
- ②スポーツばかりのアイデンティティーで長く過ごしてきたために、社会の一員としてのアイデンティティーにうまくトランジションできない。

上記が挙げられ、このような問題のことをセカンドキャリア問題と呼んでいる。

近年、社会人になっても競技生活を続ける選手をビジネスでも活用していこうという動きが、人材派遣会社などに広がってきている。

そのポイントは、

- ①人材派遣企業が、アスリートの就職を積極的に支援し始めているということ
- ②アスリートの身体能力以外の価値、すなわちスポーツキャリアの価値が認められるようになってきているようだということ

トップアスリート(例五輪代表)には多くの投資がされているが、選手が引退した後には、それらに見合う還元が社会にされていない。

#### >日本のスポーツ界の変化

##### 1. 企業スポーツの衰退

バブル崩壊後は、実業団スポーツの解散が相次ぎ、1991 年から 2006 年までの間に、300 を超える企業スポーツのクラブが解散をした。

日本では、トップアスリートが企業に所属し、引退後にそのまま企業に属する、あるいは引退後に学校の部活

動の顧問などに就職し直すというようなケースが多かった。しかし、近年選手を受け入れる企業そのものが減ってしまっている。

## 2. スポーツの商用化または高度化

1984年のロサンゼルス五輪以降、スポーツの商業化が急速に進んだといわれている。アスリートの周辺の関係者にスポンサーから大金が流入するようになったことが一種の励みとなり、それによって技術の高度化が進化した。

また、高騰するテレビ放映権料を取り返そうとするテレビ局は、スポーツの露出拡大を進めてきた。そして、時々で選手の感動ストーリーなどを作り、オリンピックメダルやワールドカップそのものの価値を高め、栄光や名誉を際立たせていく。そうしたことがオリンピックやワールドカップに参加する国の、国を挙げての強化に取り組む動機付けとなっている。

### ＞アスリートの状況

上記のような環境下、トップを目指すアスリートは、少なくともある一定期間は他を犠牲にしても、競技力向上に全力を注ぐ必要がある状況になっている。一方、競技生活に必ず訪れる引退後、社会の一員としてのアイデンティティーにはうまくマッチングできていない。

トレーニングも日常生活もすべて周囲に世話されてトップアスリートになることだけを目指すような競技生活を送ってきたアスリートであればあるほど、そのキャリアは、スポーツ界でしか通用しない特殊なキャリアになってしまっている。

その特殊なキャリアは、これまで教員や指導者として生かされてきているが、総じて言うと、スポーツキャリアを生かせる就職先というのは、限定的だといえる。

### ＜海外事例＞

#### ①オーストラリア(アスリート・キャリア・アンド・エデュケーション・プログラム=ACEプログラム)

首都キャンベラにある国立機関、オーストラリア・インスティテュート・オブ・スポーツ(AIS)で、日本の国立スポーツ科学センター(JISS)は、AISをモデルにつくったと言われている。

それぞれの研究所で実施されているアスリートキャリアの支援プログラムが、ACEプログラム、アスリート・キャリア・アンド・エデュケーション・プログラムで、このプログラムは人生とスポーツの両方において成功するということを理念に掲げている。つまり、バランスの取れたアスリートになるというのを目指している。

エリートアスリートとしてリストアップされたその時点から、競技力向上に向けた強化策の中の一環として、アスリート自身の将来のことを考えて、準備を実践していくという支援が充実しているということが明確である。

欧米を中心に特徴的なことは、学校教育の中で、体育の授業が少ないことが挙げられる。これは、すなわち、部活顧問や体育教員のポストが少ないことを指す。そもそもスポーツキャリアをスポーツ界の中だけで生かそうとした場合の有給の職が少なく、したがって、スポーツだけに没頭せずに、仕事のこともしっかりと考えておかななくてはならない。

#### ②フランス

ダブルキャリア支援システムについて。フランスでは、アスリートの育成段階において、ダブルキャリアサポートというシステムを採用している。これは、ファーストキャリアに対するセカンドキャリアという発想ではなく、現役時代から、トレーニング・学業・職業をダブルで両立させるためのサポートと位置づけられている。このことにより、精神的に保障を与える点で重要だと認識されている。

フランスでは、トップアスリートへのサポートは、国の法律によって制度化されている。トップアスリートの対象となるハイレベルスポーツが認定されており、オリンピック種目と、例外的にラグビーやゴルフなど、現在約 50 種が認定されている。

ハイレベルスポーツに認められたスポーツの各連盟が、連盟に所属する選手の中から、トップアスリートをエリート、シニア、ジュニアの 3 つにカテゴリー分けをし、リストアップしている。このリストアップされたトップアスリートに対し、育成段階からダブルキャリアの支援が与えられる。

フランスには、このリストアップされたアスリートというのは、およそ 1 万 5,000 人存在し、そのうち約 850 人が、国立のスポーツ研究所、INSEP という施設でトレーニングをしながら勉強などに取り組んでいる。

ハイレベルスポーツに認定された約 50 種の団体のうち、およそ半数が INSEP をトレーニング拠点として活用している。

多くの団体が INSEP を利用する理由として、選手の宿泊施設があるということだけではなくて、教育のための設備が整っていることを挙げている。

例えば、INSEP にはアスリート学業面をサポートするコーディネーターがおり、学業とトレーニングをうまく調整している。

また、高校生年代の場合、すべてにおいてヨーロッパで標準的に使われるバカロレアという学位取得を目標にしている。

バカロレア取得後、キャリアカウンセリングを行い、必要な教育を検討する。人によっては大学教育を受けること、または職業訓練を受けることが具体的に検討される。これらはすべて、INSEP の中で受講可能となっている。

スポーツのみならず、仕事、家族、社会の一員として、人生のすべてに努力するという人が尊敬されるという認識があり、日本のように、1 つのことだけに専心することをよしとするような文化は、少なくともオーストラリアやフランスにはないように感じられる。

#### <オーストラリア、フランスにみるキャリア教育>

学校教育や社会制度の中で、職業やキャリア全般に関する教育が非常に充実している。

将来のことを考えるという認識は、別にスポーツ界だけではなくて、世の中一般に浸透している。キャリアというのはスポーツキャリアだけではなく、職業のことも全部含むが、どのように生きていくかということを考える土壤が日本では非常に乏しいのではないか。

過去、自分自身を振りかえっても、

- ①社会にどのような仕事があるのだろう
- ②自分にはどのような適正があるのだろう
- ③希望の職業に就くためには、どのような勉強が必要なのだろう

といったような教育は、受けた記憶があまりない。

結果的に、具体的に自分の将来のことを考え、自分のキャリアを考えた上で大学を選んでいく人はほとんどいない。

また、アスリートのスポーツキャリアというのは、現状では特殊なキャリアとしてしか評価されていない。

つまり「つぶし」が利かない。

そういったキャリアであればこそ、この問題に真剣に取り組み、そして周到に準備するということを本来であれば、やらなければいけないと感じている。

### <キャリア支援のタイミングと研究の核>

根本的な解決には、現役中からのキャリア支援が重要であり、アスリートのセカンドキャリア問題は、スポーツ界全体の問題でもある。

現状、引退を目前に控えた、あるいは引退した選手で困った状況にあるという人がたくさん世の中に存在しており、まず彼らを救うという事を考えなくてはいけない。そのためにスキームを持った人材派遣企業との協力ということも必要になる部分がある。

しかし、本来的には、困った状況にならないよう、自分で対策できるようにしてあげなくてはならないと感じる。魚を釣って渡してあげるのではなくて、魚の釣り方を教えてあげる。

具体的に、例えば JOC の強化指定選手になった場合、練習に相当の時間を使わなければならない。

その時点で同時に、その後の対策について考える必要があると感じる。

セカンドキャリア問題の根本的な解決を目指すのであれば、スポーツの文化的な価値を上げるということとはできないか。

これができるば、それが一番の解決策だというふうに考え、研究の核としている。

### <プロジェクトメンバー>

プロジェクトリーダー河野一郎氏(冬季オリンピック招致委員会事務総長)をはじめ、吉田教授、菊助教授、プロジェクト研究員 4 名。これらのシステムデザインは佐伯年詩雄教授(平成国際大)。

==

この後、フロアからの質問では、

- ①競技寿命と人生寿命
- ②アスリートに対するキャリアサポート、対策はなぜ必要であるか
- ③文化的な価値を高めるというのは、誰にとっての文化的な価値を高めるというふうに考えているのか。

など、いつにもなく深い質疑応答が交わされた。

なかでも相馬氏の、

「競技スポーツの将来の発展のためには、アスリートが一生懸命練習している間も、安心して強化に取り組める環境をつくってあげることが世の中に必要なのではないか」

という言葉が印象的であった。

以上



## — 相馬 浩隆 プロフィール

---

昭和 40 年東京都生まれ。高校時代からモーターサイクルスポーツに興味を持つが選手として能力を発揮できず、競技運営側で関わりを続けようと NF に勤務。その後自分の仕事を理論的に整理するために夜間大学院に通ったことがきっかけで、平成 17 年より現職。筑波大学体育研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻「トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクト」専任研究員。明治大学—筑波大学（経営学修士、体育学修士）。文部科学省の助成を受けた大学プロジェクト「筑波大学トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクト」の研究員として、トップアスリートのセカンドキャリア開発モデル構築のためのカリキュラム開発に携わる一方、関連する研究プロジェクトで主に調査を担当している。文部科学省、トップレベル競技者のセカンドキャリア支援に関する調査研究ワーキンググループ委員（平成 18 年～）。日本オリンピック委員会、JOC ゴールドプラン専門委員会セカンドキャリアプロジェクトメンバー（平成 18 年～）。

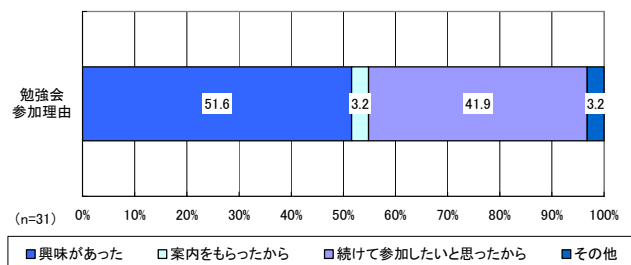
---

---

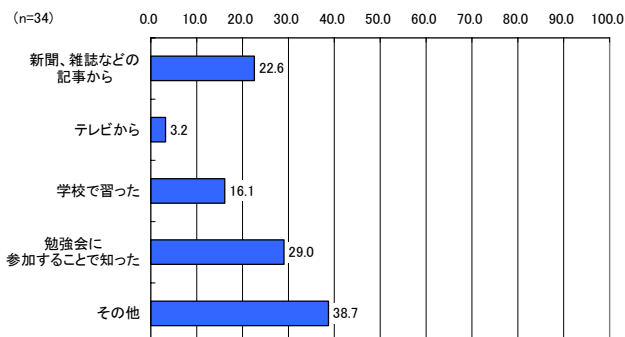
## 2. 第19回 アスリートのためのキャリア・トランジション勉強会 アンケート集計結果

アンケート総数:31

### 1. 勉強会参加理由



### 2. 興味、関心について



### 3. 勉強会はどうだったか。

- ・ アスリートに限らず、キャリアを転換すること自体が、社会で受け入れられていないように感じます。スポーツをがんばることをいろいろな仕事をしてみる等、多様な生き方を受容できるような社会になれば、スポーツの文化的価値も自然と高まると思います。
- ・ セカンドキャリアの支援体制については、Jリーグのこと位しか知らなかったもので、勉強になりました。
- ・ 初めて参加させていただきました。とても面白かったです。私はここに来ていらっしゃる方の中では、一番知識がない人間だとは思いますが、この問題に興味を持った心は共通しているんだなと思えました。やはり、アスリートのため、自分のやってきた競技の発展のため、日本のスポーツの今以上の発展のため・・・自分ができるところをやって生きていきたいと思う気持ちが強くなりました。また自戒も参加させていただきたいです。
- ・ オーストラリア、フランスの現状をはじめると、アスリートのトランジションの問題は、極めて文化的思想的宗教的歴史的背景が大きいと思った。プログラムは必要かという問いがあったが、学生の中の職業意識の希薄さは、アスリートのみではなく、日本の若者全体の問題であると思う。ニートやフリーター、企業のご都合主義に翻弄される若者たち全体に適用されるものだと思う。プログラムは職安や大学の就職課でやっているようなことと同じではないのか？アスリートに支援が必要なのは、就学を考えるスタートが遅れるためだと思う。同世代が就職を意識しているときにはアスリートとして集中しなければならない。いざ就職するときには、その年齢に求められるスキルが身につけていないことか。
- ・ 日本国内での研究での最先端の話が聞けて大変勉強になりました。今少しずつキャリアトランジションに変化があるのだと感じました。
- ・ 現在、「キャリアトランジション」というものが、どのようなところまで進んでいるのか認識することもできました。また、さまざまな意見の中にも面白いものがあり、とても楽しく学ぶことができました。
- ・ トップアスリートの価値をプロモーションすることは私も大切だと思います。ただ、今、私のいるメディアの世界では、本当の価値を広めるのではなく、個人の情報だけを流している気がしてなりません。アスリートは「脳まで筋肉なんじゃないの～？」的な考えは間違いで、スポーツで頂点を極めるには人体ですごいことが起こっている事実、その能力をもっと知ってもらえる場をつくれたらいいのに、と思いました。
- ・ とてもよい刺激になりました。問題を正論に掌握することができたように思います。実は多くの疑問を持ちました。ありがとうございました。
- ・ なぜ、アスリートのキャリアトランジションが必要なのか考えさせられました。貴重なお話ありがとうございました。
- ・ 私が参加した今までの数回とは違い、今日は話がとても具体的で、ともに考えることができました。「教育システムの改善」ということが結論としてあがっていましたが、私もそれしかないと思っております。
- ・ 我々アスリートに携わる仕事をしている立場の人間が(アスリートマネジメント会社)どんなサポートができるのだろうか？といろいろと考えさせられる勉強会でした。
- ・ 現在行われている研究内容を知ることができ非常に有意義でした。
- ・ 引退後に何をしたいのか今からしっかり考えたいと思います。
- ・ 非常に興味深く勉強になりました。私自身はスポーツには縁がなくなりましたが、アスリートのキャリア支援で取り組んでいる問題は、日本社会の日本全体の問題・課題と考えます。人間として育つということにアスリート以外の社会人もどれだけ真剣に向き合っているのでしょうか？考えさせられる時間でした。
- ・ この勉強会の目的と目標がわからなかった(啓蒙？PR？有志事業？研究？)①内輪話のような会話(専門用語が当たり前、身内話多い)②質問に的確に答えていない(文化と文化的価値観の質問など)。今日初参

加なので言葉もノリもよくわからなかった。

- ・ 正直、初めて参加させていただいたものからすれば「キャリアとは」「トランジション」とは何？という感じです。お話しの中にありました1つ目の種目(たとえばシンクロ)の部分社会に固執するのではなくスポーツ界全体云々とありましたが、それはそうだと思う反面 J リーグなどという内容が多く、たとえばゴルフ界は?? スポンサー、環境などの問題、自分で限界を感じた後の身の振り方は?というのが本日の感想です。
- ・ 過去の経緯から現状まで知ることができてよかったです。毎回ありがとうございます!
- ・ 想像以上に日本のアスリートサポート体制が遅れていることが知れて大変驚かされました。
- ・ 参考になりました。
- ・ これから J リーグに提案するためのねたが見つかりました。
- ・ 今日の「まとめ」の部分と同じことを言いたい。(現在大学院にいます)そのために宗論で何をしようか迷走中です。(それは一般大学の体育会と呼ばれる人たちと大学の現状を見て「?」と思うことが多々あることも理由のひとつですが)アスリートの教育というと NCAA ばかりが思い浮かんでしまいましたが、フランスの事例など参考になりました。ありがとうございました。ただ、プレイヤーとしてトップになる→セカンドキャリア教育→スムーズにキャリアトランジション。という流れに全員がのかってしまう現状を考えると、少し怖い部分もあります。抽象的ですが、スポーツと自分との距離感がなくなってしまう気がします。うまくいえませんが。
- ・ 「なぜサポートが必要なのか」にはっとさせられました。アスリートの社会・文化的価値を高める。という取り組みは確かにもっと必要だと思います。
- ・ 途中入室だったので全部はわかりませんが、あまり新鮮味がなかった。
- ・ 日常考えていることが、相馬さんのお話を通じて整理ができました。大変有意義な時間でした。
- ・ 海外事情も知れてよかったです。
- ・ 新しい情報に触れることができました。
- ・ オーストラリアやフランスの現状が日本とはぜんぜん違うのに驚いた。
- ・ 今日のテーマにおける内容は深かったです!

#### 4. 日本のセカンドキャリア支援の現状

- ・ 本日、勉強会に参加して、私が想像していた以上にセカンドキャリアの支援は実施されていることがわかりました。
- ・ 私は行政にいます。非常勤としてですが、文部科学省でスポーツと教育担当のところにいます。質問されていた方がいらっしやいましたが、「なぜスポーツ選手のキャリアサポートをしなくてはいけないのか」、もっと言えば「なぜ国をあげてスポーツに力を入れなくてはいけないのか」を国民に対して論理的にきちんと説明できなくてはならないと思います。今は、まだその答えが薄い危害します。予算をつけるにしても行政は説明が求められ、その裏づけを求められる世界だと思うので、明確にしていかななくてはいけないのかなと思いました。
- ・ 私は現在、就職活動中の身であり、これまでのキャリアの価値と言う部分に大変魅かれました。スポーツと言うキャリアが大変貴重なものであり、それがまだ社会に生かされていないのを残念に感じます。
- ・ アウトソーシング業を中心に、多く広まりつつあると思う。しかし、まだまだ認知度は低いと思う。
- ・ プロ野球の記事を拝見し、かつて仕事で接したことのある高卒選手たちの現状が心配になりました。プロ野球ではスカウトが担当した選手を窮地の企業などにねじ込んでいるという現状がいまだにあるようなので。(この勉強会するとき小林至さんにお聞きしたところによると。)
- ・ 何をもち「適応」とするののか?
- ・ 様々な場面で見たり聞いたりする機会が増えたと思います。自分の携わる仕事でも、一助となれないかと思えます。国内(JOC?)の事業や広報と強化の運動ももう少し可能になればと思います。
- ・ 私は以前、日本のプロ野球界に席を置いておりました。その立場からしかものを見れなくなっているかもしれませんが、特に野球界の取り組みの遅れは嘆かわしいです。「元プロ野球選手の犯罪」などという新聞記事を見ると本当に心が痛みます。自分がかつてそこに在籍したことを誇れるような組織になってほしいです。J リーグよりもずっと古い組織であるのに選手の生涯設計のことなど何も考えていない。
- ・ 今までサッカーとかかわりが多かったのでキャリアサポートセンター活動は様々なスポーツの団体で渡来してほしいと思っています。CSC のような活動やこのような勉強会がまだまだ少ないと思うので、様々な場で広がればいいなと思います。
- ・ まだスタート段階
- ・ 協議によると思われるが、自身の競技では(ゴルフ)まるで情報がない! 団体と個人競技では?
- ・ キャリアとセカンドキャリア、それにともなるトランジションをアスリートという環境から一番まじめに取り組んでいると思います。実はすべての社会人にとっても同様にまじめに取り組むべき問題です。
- ・ 放置状態。自助努力にゆだねられた状態
- ・ アスリートの社会的(ビジネス界での)地位がまだまだ低い。アスリートであったことがビジネス的にはプラスよりもマイナスで見られることが多いと思います。
- ・ サポートが非常に低いと思います。
- ・ 就職支援が 99%、教育支援が 1%
- ・ 昔に比べるとアスリートのその後について話題になってきていると思う。だが、トップアスリートや、目立つ職

業について人だけがクローズアップされていて、一般的なアスリートや学生が自分のキャリアについてどう考えるべきかなどはまだまだ注目もされていないし、意識もされていないと思う。また、現役の間に自分の競技以外の仕事を考えることを由氏としない空気もまだあると感じる。

- ・ 創世記にあり、まだまだ書く方面での活発な議論の必要性を感じます。また国家的な支援も十分ではないので、そちらの働きかけも重要かと。
- ・ アスリートの方とお話をする、セカンドキャリアサポートの取り組みに非常に期待しているという声をよく聞きます。このような取り組みが大事だと思っています。
- ・ 確か日本は遅れている。
- ・ 着実にキャリア支援の体制が進んでいると思っています。ただし、全体に浸透するには時間がかかるとは思います。

## 5. 今後の勉強会にて議論したいこと

- ・ 課題や現状はなんとなくつかめているのですが、その「解決方法」についてもっと具体的に知りたいです。アスリートに対して具体的にどう啓発していくのか、導いていくのか…知りたいです。
- ・ アスリートの転職ではなく、違う場で同じスポーツを挑戦させるスポーツはあるのか。
- ・ 日本のプロスポーツ界でのキャリアトランジションの現状と世界との比較
- ・ 今回、最後に会ったように討論会、座談会形式でも見てみたいです。
- ・ 今一度、JOC や Jリーグの活動内容、これまで積み重ねてきた成果など、ご報告いただければと思います。
- ・ 現役選手が求められていること。より具体例・団体競技、個人競技による違い。
- ・ アスリートのメンタルコントロール(ビジネスですぐ使えるような)
- ・ 現役の学生アスリートのキャリアに対する考え方を聞いてみたい。また、高校野球のサッカーの強豪校の先生の進路指導・教育についての考え方などにも興味があります。
- ・ 海外事例の深堀をお願いできればと思います。
- ・ コーチ、指導者
- ・ いくら就職が可能だとしても、いざ仕事をしたときの、プライドの高さが気になる。成績やメダルをとっていない人間は格下としか見ない人物もいる。特別だと思う選手自信の意識改革が必要だと思う。そうでなければ社会には不必要なだけです。

## 6. ご意見

- ・ 「誰にとっての文化的価値？」というお話がありましたが、スポーツから無縁の人、まったく興味のない人にこのキャリアトランジション概念を理解してもらうことはとても難しいと思います。どうやってスポーツの彼らの中の価値をあげていけばよいのか、いつも考えます。個人的には…相馬先生が「筑波の学生は体力でも将来を見据えていない」とおっしゃっていましたが、耳が痛かったです。トップレベルにないアスリートのキャリアトランジションも大切なのかなと思います。
- ・ 広めるべき
- ・ 現在、さまざまなスポーツ系学部をもった大学が増えているので、そのような大学でセミナーなどを行っていったらどうでしょうか。
- ・ 次回勉強会のところでも書きましたが、今、世の中の人たちだけでなくスポーツに携わっている人間の間でも「プロ」という言葉がわかりづらくなっているかと思っていますので、そのあたりを明確にしていくことも大切ではないかと考えます。
- ・ やっぱり、プログラム介入は大事だと再確認しました。
- ・ 仕事柄、元アスリート、現アスリートとお話させていただく機会、お仕事(イベント)をさせていただく機会が一般の方より多い中で思うことです。ここ数年で考えてもアスリート自身のキャリア(人生)の考え方が変わってきているように感じます。特に世間では、メジャーではなくマイナー種目とされている競技の方に強く感じます。今日の話聞いても思うことですが、まずは自分を知ること、自分の価値を認めること、そしてそれを他人に伝えられる語れるようになることが大切ではないでしょうか？
- ・ トップアスリートの交流イベント
- ・ 社会性は二の次！まずはそのスポーツを強くするためにキャリアサポートをするというフィロソフィーが足りない。フランスやアメリカのようにスポーツが文化なら別だが日本ではスポーツが強くなければその競技の存続にかかわる。まさに Jリーグは崩壊しようとしている。
- ・ 今、知名度の高いアスリートがキャリアトランジションを迎えていて、注目もされているので、「アスリートにしては競技以外の可能性もあるのだ」ということを多くの人に知ってもらうようなきっかけを作れないのか？
- ・ ニートやフリーターは、キャリアの準備をしてこなかったためなんですか？就職したら後のサポートが薄い気がします。

【第 20 回まとめ】に向けて勉強会内で議論してほしいこと

- ・ マーティーキナートの「文武両道日本に非ず」
- ・ 日本野球界でのキャリアトランジションについて聞いてみたいです。
- ・ プログラムを進めていくときに生じる問題点とは？
- ・ 現在、キャリアトランジションを経て、社会で活躍されている方はどのくらいいるのでしょうか？
- ・ 日本におけるアスリートの現状。「プロ」といってもいろいろな立場でスポーツを続けているアスリートがいると思われるので、それを事例で知りたいです。
- ・ 勉強会としてのコンセプトを構造代とするのはいかがでしょうか？そうですね題して「出版打ち合わせ会」にしてみてもいいですか？
- ・ 私のいた日本の野球界では、本日、田中さんも言及されていましたが「将来のことを考えずに狭義に没頭しろ」という雰囲気があり、また外部からのアカデミックなアプローチを極端に嫌う「村意識」が蔓延しております。他の協議でも程度の差はあれ、似たような雰囲気があると思います。基盤は、同じ悪い意味での「体育会」であると思います。どんなにこのような勉強会で素晴らしい知識を得てもいかにして彼らにフィードバックしたよいかわかりません。「悪い体育会系」に立ち向かうにはどうしたらよいかということのを是非議論いただき、私に知恵を貸していただきたいです。
- ・ キャリアトランジション勉強に反対する意見は、「勝つためには必要ない」というものが多いかと思うのですが、実際にはどのような批判が多いのでしょうか？あと、選手で反対される方もいると思いますが、どうでしょうか？それから田中さんは力士のセカンドキャリアについて何か取り組まれているというウワサを聞いたのですが、そちらのほうについてお話いただければと思います。
- ・ アスリートのキャリアトランジションについて、もっと多くの人考えるようになるにはどうしたらいいか・学生アスリートが自分の進路について、競技以外の生活のあり方、引退後の生き方なども含めて考えられるようにするために教育はどうあるべきか。
- ・ アスリートの視点だけではなく組織・団体(スポーツ組織、企業、行政など)の視点も絡めたもの
- ・ 田中さんがお会いしたアスリートの方の事例。セカンドキャリアへの考え方や引退後の現状について
- ・ 何かひとつの議題を深く掘り下げてほしい

2007 年1月24日 勉強会参加者(順不同/敬称略)

石黒 雅広	久保 悠也	小林 綾香	木幡 日出男	平本 相武	宮脇 梨奈
石井 美恵子	後藤 聡	谷川 泉	鈴木 理裕	佐野 毅彦	坂田 純代
濱野 太郎	豊田 則成	谷口 美幸	増田 明	加納 秀益	小林 祐子
山下 修作	青山 剛久	椎名 純代	志方 雅子	岡田 美紀	笹氣 理敬
飯沼 宏統	佐藤 友三	棚村 信造	渡辺 裕子	平戸 拓夫	久古 千昭
広瀬 雄次	菅野 妥	石坂 貴明	小清水 哲郎	近藤 晋弒	波多野 雅人
今泉 利恵					

---

# 次回勉強会スケジュール

## 第20回勉強会

2007年2月26日(月)18:30~20:00

テーマ

勉強会まとめ

「キャリアトランジションを振り返る～キーワードで探るトランジション～」

田中ウルヴェ京 重野弘三郎

場所

ミズノエスポーツ

---

事務局:株式会社MJコンテス

東京都港区白金台 4-5-7-205

TEL 03-3447-2890 FAX 03-3447-2893

田中ウルヴェ京

清水栄子

ご意見・ご質問などございましたら事務局までお問い合わせください。